

演題番号

35

新しい瑞穂の森へ  
～コロナ禍のとり組み～

志木瑞穂の森 介護課 3階



## はじめに



- コロナウィルスが蔓延する中、感染リスクを考えるとコロナ以前の生活を続けることは困難になっている。
- 施設においてもコロナの影響は避けられず、入居者様の面会や外出が難しくなっている。同じような生活が続くとマンネリ化してしまい、入居者様が退屈してしまう。
- 制限を余儀なくされた中で、どのように生活を楽しんで頂くか。



- ↓
- 志木瑞穂の森では、コロナの環境下での取り組みとして全体行事を各フロアで行うように見直しを行った。



## 目的及び実施内容

- コロナ禍においても入居者様に楽しんで頂く
- ・行事開催規模の検討。  
→施設全体で行っていた行事をフロア毎に実施する事でコロナの感染リスクを減少させる。
- ・外部委託の見直し。  
→行事の準備を施設職員が行うことで、外部からのコロナウィルスの侵入リスクを軽減させる。
- ・屋上フロアの活用。  
→行事の開催に屋上フロアを使用する事で、入居者様の気分転換を図る。





## 森まつり

3階 ワニワニパニック



4階 お菓子すくい



5階 射的



6階 金魚すくい



- 以前は施設全体で森まつりを開催したが、フロア単位で開催した。
- フロア毎に企画の考案及び開催をする事で、フロア毎の特色が出て入居者様に楽しんで頂けた。

※個人情報については、本人・家族様に承諾を得ております。

## 寿司祭り



常食



- 従来は寿司職人を招いて寿司の提供を行っていた。今回はコロナ禍の為、施設で寿司の準備及び提供を行った。

刻み食



ソフト食



- 入居者様に楽しんで頂けるよう、刻みやソフト食等の食形態に合わせて寿司の準備を行った。



## 森カフェ



- コロナ禍で外出行事が出来ない中、外の空気や景色を楽しんで頂く為に屋上で森カフェを開催した。
- 会場への誘導は10名単位で行い、密になりすぎないように実施した。

## 考察

### ①森まつり

フロア単位に開催する事で、感染リスクが分散出来た。  
→従来行っていた和太鼓や歌唱の時間がない為、どのように盛り上げていくのかを考える必要がある。

### ②寿司祭り

食形態に合わせて提供した事で、皆様に寿司を召し上がって頂けた。普段は食の細い入居者様も箸が進んだ。  
→寿司の準備から提供まで施設の職員だけで行う為、人員の確保と迅速な提供が必要となる。

### ③森カフェ

屋上フロアでの開催により外気に触れて頂く事で、入居者様の笑顔が見られた。  
→少人数ずつ移動して頂く為、誘導や介助の為に担当スタッフだけでなくフロアの職員の協力が必要となる。

どうしたら  
もっと良く  
出来るかな  
？





## まとめ



- フロア規模でも入居者様に楽しんで頂ける行事を行うことは可能。しかし、これからも楽しんで頂く為にはさらなる工夫と努力が必要である。



- 普段と違う食べ物は刺激となり、おいしい料理は心を動かす。遊び行事だけでなく、食レクを行うことで良い刺激となる。



- 屋上フロアを活用する事で外気に触れる事が出来、外出が難しい状況下でも気分転換をして頂く事が出来る。行事時だけでなく、日常的な活用も有効である。



## 最後に



現在、日本国内においてコロナの感染者数は減少傾向にあります。しかし、外出や人手の増加に伴うウィルス感染の危険性やウィルスの新たな変異株の出現など、感染の可能性はまだまだ続く。

生活の在り方が変化していく中でも入居者様に快適で楽しく過ごして頂けるよう、これからも関わらせて頂きます。

